

た じ み し おお はた  
多治見市 大畑センター  
しん さい しゅう しょ ぶん じょう  
新最終処分場



地球を「まもる」くん





地球を「まもる」くん

## 新最終処分場の概要

この最終処分場は、三の倉センター（ごみ焼却場）で  
ごみを焼却した時に出る飛灰に薬品とセメントを加  
えて固化したものを、専用に埋め立てる施設です。  
また、水を出さない・入れないをコンセプトに建設し  
ており、埋立箇所に屋根を付け、水処理施設はあり  
ません。

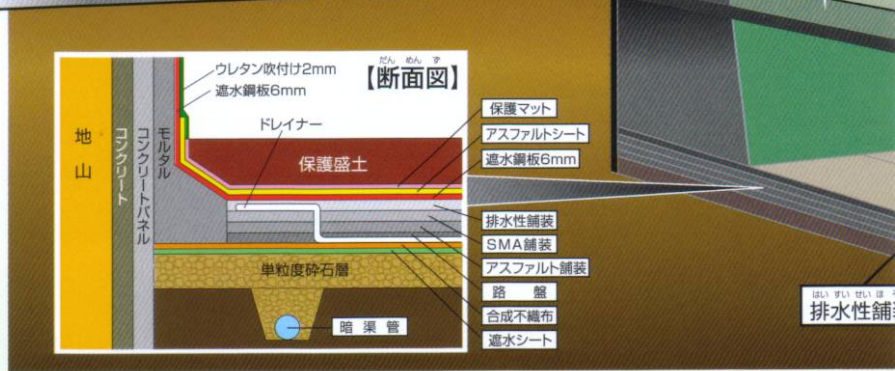
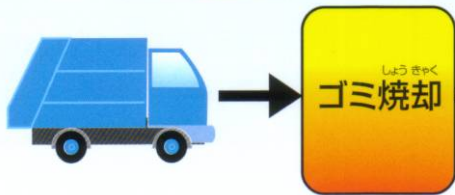


三の倉センター



### ※ 飛灰

ごみ焼却したときに発生する細かい灰です。  
三の倉センターから出る飛灰の成分は、主に  
亜鉛・鉛等の重金属です。



## 多治見市の最終



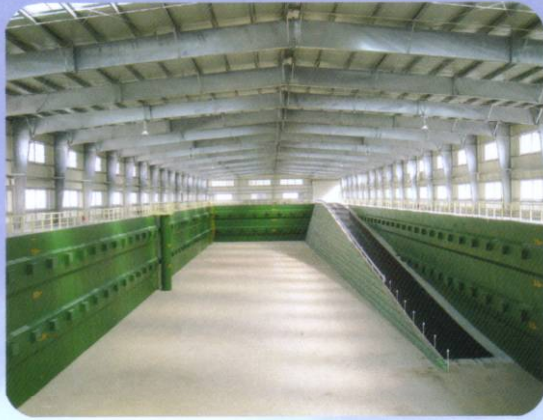
覆蓋構造物（建物）は、雨水等の浸入を  
防ぎ、また、外部への粉じん等が出るのを  
防ぎます。



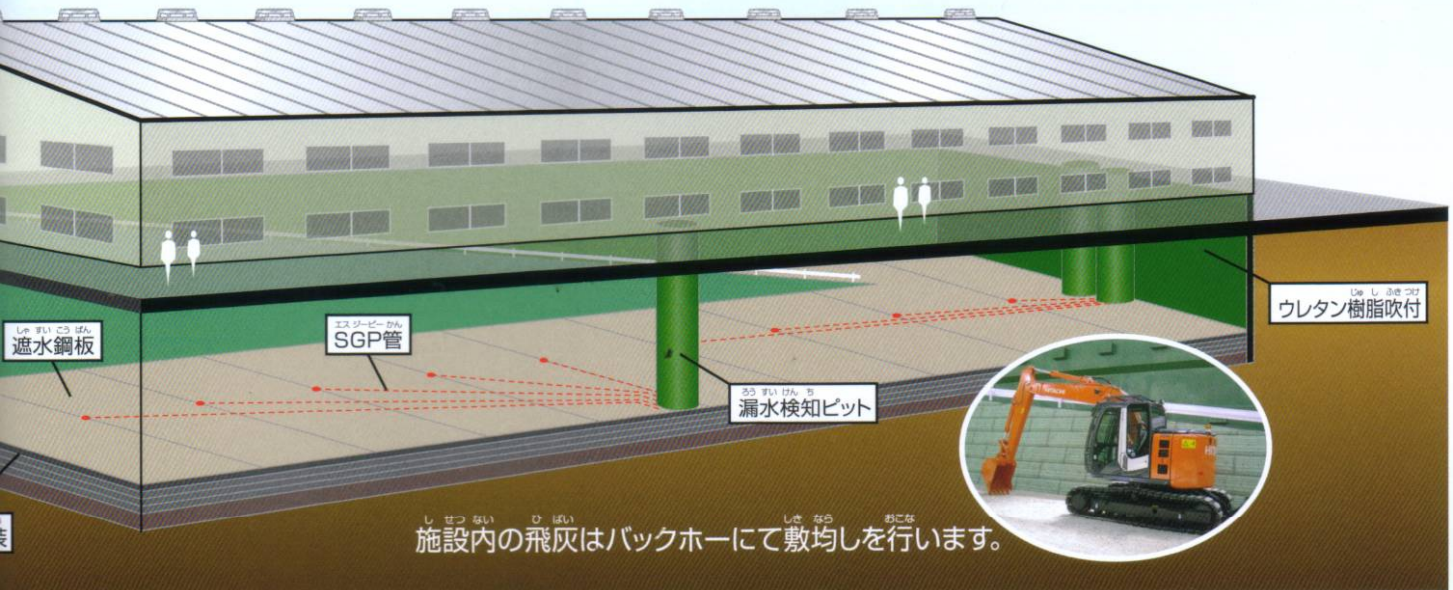
鋼板にて遮水しているので、通常最終処分場  
に使われるゴムシートと違い、鋼板に穴が開い  
たり、紫外線劣化による破損がなく安全です。



接合部は、船を造る  
合を行い、漏れたり  
第三者による確認検査



飛灰を埋める箇所の大きさは、全長142m、幅30m、深さ8.5m~9.5mです。  
 埋立箇所に鋼板遮水システムを採用しています。鋼板遮水システムとは、鋼板を遮水シート代わりに使い、埋立物が外に漏れないようにする方法です。加えて埋立箇所の壁面には防錆処理として厚さ2mmのウレタン吹付け(グリーン色)を行い、床面には厚さ4mmのアスファルトシートを敷設、更に保護盛土により、遮水能力を長期的に確保しています。



## 終処分場の特徴



ときと同等の溶接接合がなされ、割れたりしないようになっています。



鋼板の下には、水を通さない舗装(SMA舗装)を行い、万が一、鋼板に穴が開いても地下に浸透しないようになっています。



漏水検知ピット



鋼板に穴が開いて水が漏れた場合、SGP管により漏水検知ピットに集まるので検知器により、すぐに修繕箇所が発見できる仕組みになっています。

## 位置図



### 多治見市 大畑センター 新最終処分場

〒507-0817 多治見市大畑町大洞48-35

TEL.0572-23-2926

## 施設内容

最終処分場の形式	管理型最終処分場(クローズドシステム)
最終処分場の容量	35,000m <sup>3</sup>
最終処分場の埋立面積	4,260m <sup>2</sup>
最終処分場の建築面積	5,164.45m <sup>2</sup>
供用開始年月日	平成22年 6月～
工事期間	平成19年度～平成21年度
総事業費	1,828,641千円
財源内訳	
国庫補助金	505,717千円
県交付金	100,000千円
地方債	946,200千円
市費	276,724千円

工事監理	株式会社興栄コンサルタント
新最終処分場本体工事	岐建・吉川・加藤特定建設工事共同企業体
周辺施設整備工事	井戸建設株式会社
同上	河村電気商会
同上	日章産業株式会社
同上	丸栄工業株式会社
同上	株式会社吉川組

(五十音順)